

巻 頭 言

第8回フォーラムの準備を始めたのは2006年10月、ミーティングでテーマが決定しパネラーからOKが出れば会場準備の分担がいつものように決まりフォーラム当日まで個々に守備範囲をこなしてやっとなしに終了を迎えることができます。スムーズにこなせるようになったのは最近ですが（笑）この6年間でわたしたちは少し成長しました。山をいつまでも楽しむためにトイレ問題を解決しようと集まった市民活動は、それだけの目的の為に多くのことを理解し学習する連続でした。山小屋とトイレの歴史を知る、山岳地の管理者を知る、トイレ処理方式の特徴を理解する、既設トイレの実態を知る、配布物の作成や効果的な使い方や印刷、活動資金獲得の申請や報告など数え切れない作業がたくさんありました。ここまで進んでこられたのは、これに関わる関係団体や登山者の願いが「単純なひとつ」だったからでしょう。

第8回フォーラムのテーマは「トイレ管理」です。「既設のプレハブ避難小屋とキャンプ場にトイレは必要」と美瑛富士避難小屋トイレ設置要望の署名2万6千筆余の気持ちに対し、必要な設備を整えることを仮定すれば“構築物管理の引き受け手がないと設置ができない”こととなります。いままで避難小屋の清掃や修理など管理作業は地域山岳会のボランティア活動によって支えられてきました。更に管理すべき設備が増えることは難しい問題です。これから山に在り続ける登山道付帯設備のトイレを“誰が管理するのか”管理の引き受け手がないため設置が阻まれるとしたら、それ以前に管理の方法が時代にみあったものなのか、他の方法はないかを探ろうと企画しています。

ボランティア団体の人的環境はエイジングによってその形態の変化を余儀なくされています。いつまで旧態の手法で管理できるか、この辺で発想の転換を行政も利用者也認識せねばならない時代となりました。交通不便な山岳地ですから里から通うボランティアではなく、宿泊や休憩利用した登山者が清掃などの作業を実施してボランティア報告を提出する方式に切り替えるのはできないでしょうか。雨天時など山中の行動が制限されるとき、山小屋やトイレの掃除をしたという記述を小屋日誌の中にみつけることはよくあることです。山岳地のトイレに必要な管理保守作業は、そこを利用した登山者が自ら行うことで足ると想像できます。管理は所轄機関が担い避難小屋に保全日誌のような記録を残す用紙を置いてはどうでしょうか。

既存の方策で対応できない事態に直面したいま、合理的な方法を採用できないものかここで皆様とともに検討するのを希望します。管理に市民参加させる小屋利用マナーは、これまでに行ってきた登山者がいるから今後も実行できると考えます。もっと多くの登山者に理解を求め現実的な管理が実施できるよう、管理の方策が変化することを期待します。

山のトイレを考える会 代表；横須賀 邦子